

基本構想検討シート＜220＞ 区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる

1. 現行計画が目標としているまちのすがた

誰もが移動しやすい交通手段が確保され、主要駅周辺が整備される等、区民や来街者にとって交流ができる利便性の高いまちとしてにぎわっています。また、ユニバーサルデザイン化が進み、誰もが安全・快適に暮らしています。

2. 20年間の変遷（基本構想策定（H17年）～現在）

	2005（H17）～2009（H21）年	2010（H22）～2014（H26）年	2015（H27）～2019（R1）年	2020（R2）年～現在
施策221 主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する	- 押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン策定(H18) - 押上・業平橋駅周辺地区地区計画決定(H19)	鐘ヶ淵地区まちづくり計画を策定（H24）		鐘ヶ淵駅付近を都が『事業候補区間』へ位置づけを表明（R4）
	京成曳舟駅前東第一地区再開発事業完了（H18）	- 曳舟駅前地区再開発事業完了（H22） - 京成曳舟駅前第二南地区再開発事業完了(H24) - 押上・業平橋駅周辺土地区画整理事業完了(H24)	京成曳舟駅前第三地区再開発事業完了（H27）	
施策222 安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する		区内循環バス運行開始（H24）	東武伊勢崎線連続立体交差事業都市計画決定（H27）	上り線高架切替完了（R4）
	主要道路景観整備、橋梁架替え・再整備、公園新設等・再整備、道路バリアフリー整備			

基本構想検討シート＜220＞

区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる

3. 当該分野における区を取り巻く環境

(1) 社会経済動向	(2) 区民のニーズや行動の変化	(3) 法制度や国・都の政策の変化
- バス運転士の不足、燃料費等のコスト増から、地域公共交通の一翼を担うバス事業について、今後の持続可能性に課題が生じている。(公共交通) - 地下鉄8号線は、豊洲～住吉間の延伸の事業化が決定。(2030年台半ば開業予定) - 大型商業施設の老朽化に伴う機能更新 - 隅田川沿線にあった大規模企業者(ライオン)が移転 - ウクライナ情勢による原油・原材料価格の高騰による建築資材の高騰	- 公共交通の利用が増加し、特に駅周辺の住宅地への需要が高まり、駅へのアクセスの便利さが重視されている。 - 健康意識や環境への配慮から自転車へのニーズが高まり、自転車通行空間の整備が求められている。 - 令和2年の区民アンケートの結果によると、「区内の交通環境に満足している」と思う区民の割合は82.1%で、平成27年の調査結果の79.0%から3.1%上昇しているため、区内の交通環境は、着実に改善している。	【国】 - 官民連携によるウォーカブルなまちづくりの推進 - 都市公園法の改正により公募設置管理許可制度(Park-PFI)が創設 「災害に強い首都「東京」形成ビジョン」を踏まえ、「高台まちづくり推進方策検討ワーキンググループ」が設置され、高台まちづくりのモデル地区等における取組状況の報告や今後の高台まちづくりの検討を進めている。 - 駅まちデザイン手引きの策定 ⇒駅まち空間を、これからの時代のまちづくりの中核を担い得る場所ととらえることなどが謳われている。 【都】 「未来の東京」戦略の策定 ⇒都市の持続可能性や競争力を高め、住民の生活を向上させることを目的とし、交通インフラの改善、環境保護、経済の活性化、教育の充実など、様々な分野にわたる政策や取り組みが謳われており、技術の進歩や社会の変化に対応するためのイノベーションも重要な要素として取り込まれている。 「隅田川等における未来に向けた水辺整備の在り方」の策定 ⇒水辺空間を都市の貴重なオープンスペースとして捉えた上での地域特性に合わせた利活用の促進等が謳われている。

4. 区の課題と今後の取組の方向性

課題	今後の取組の方向性
- 主要駅周辺においては、駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係も踏まえ、必要な機能の配置を検討することが必要である。 - また、課題やビジョン、具体的な方策について、多様な関係者とイメージを共有しながら進めていくことが求められている。	行政、開発事業者、地域住民等が連携し、まちづくり計画や運営を行っていく、体制づくりや仕組みを構築する。また、地域との繋がりを活かして住民と双方向のコミュニケーションを図り、課題やニーズを把握出来る仕組みを構築する。
- 地下鉄8号線(有楽町線)の延伸に伴い想定される将来の基盤整備に向けた関係者調整を進め、広域総合拠点である錦糸町駅周辺のまちづくりを推進していく必要がある。 - また、地域からの意見を踏まえ、実現可能性を慎重に見極めながら丁寧に検討を行っていく必要がある。	地域住民等を対象としたまちづくりに関する意見交換や地域代表者との検討会等を実施し、地域の意見を「まちづくりビジョン」として取りまとめ、将来の都市基盤整備のあり方等を検討する。

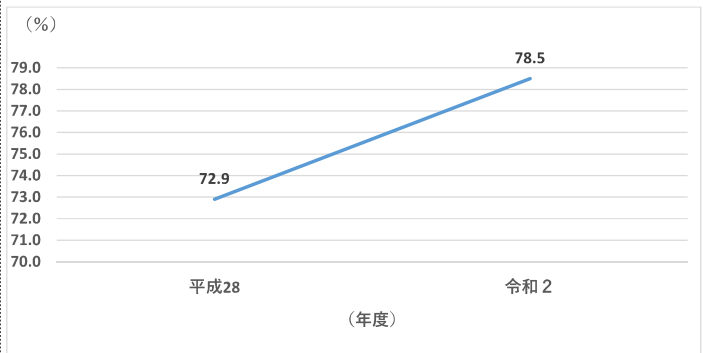
基本構想検討シート＜220＞ 区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる

4. 区の課題と今後の取組の方向性

課題	今後の取組の方向性
・ コロナ禍を契機とした新たな日常生活の変化や、DX等の技術革新に見られる技術向上等の生活様式の変化は著しく、これら変化への適切な対応に加えて、急激に進む少子高齢化や、激甚化する災害、環境保護等の社会的変化・要請といった大きな課題に対して、これまで以上に対応が求められている。	・ バリアフリー整備や公園等公衆トイレの改築による魅力的な生活環境の提供にとどまらず、新たな課題や従来の解決していない課題にも、新技術の活用や産官学民連携により、対応していく必要がある。 ・ 墨田区はウォーカブル推進都市として、引き続き、本区の魅力向上につながるウォーカブルなまちづくりを進めていくことが求められる。
・ 区内循環バス事業は、開始から10年が経過し、利用実態などが当初計画と乖離していることから、事業の見直しを行い、新事業計画を策定する必要性が生じている。	・ 区内循環バス事業を持続可能性の観点から、必要な見直しを行い、新事業計画を策定する。
・ 新型コロナウイルス感染症の影響等による利用者の減少、燃料費高騰等に伴う運行経費の増加により、区内の交通ネットワークの持続可能性に課題が生じていることから、交通事業者等関係者で組織する墨田区地域公共交通活性化協議会において、（仮称）墨田区地域公共交通計画について審議し、計画を策定する。	・ 令和6年度に（仮称）墨田区地域公共交通計画を策定し、墨田区地域公共交通活性化協議会の中で、事前に定めた評価指標に基づいて、進捗管理を行っている。

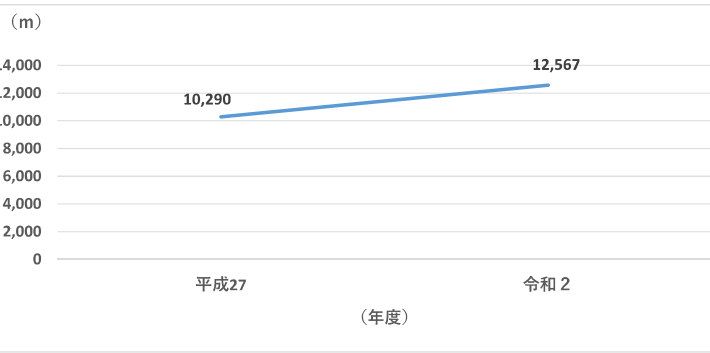
基本構想検討シート＜220＞ 区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる

図表1 「主要駅（錦糸町・両国・押上・曳舟）周辺が、
住み、働き、憩うことのできる便利でにぎわいのある地域
となっている」と思う区民の割合



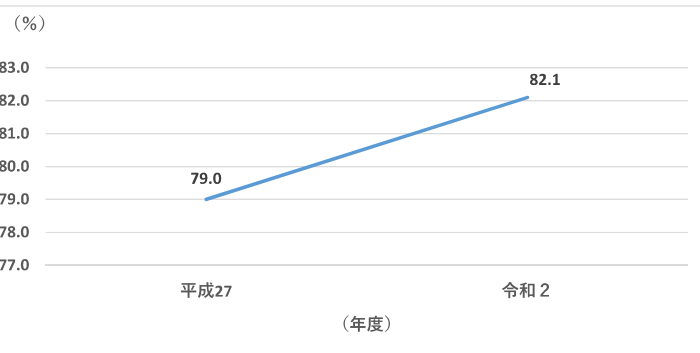
出典) 基本計画における成果指標

図表2 道路バリアフリー整備延長



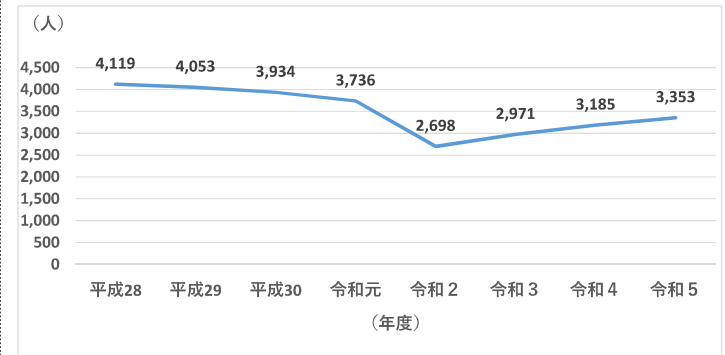
出典) 主管課データ

図表3 「区内の交通環境に満足している」区民の割合



出典) 区民アンケート

図表4 1日当たりの平均乗車人数



出典) 墨田区